

障がいのある子ども（運動、言語、知的、コミュニケーション障がい児）の

連続講座

おもちゃによる個別の発達支援の方法



【講座の主なる趣旨】 ～保育という集団の中で障がいのある子どもを受け入れる～

保育園生活が、障がいのある子どもの生活や発達に効果的であることは、多くの保育実践から報告されています。これらの実践の経験から、今、現場で求められているのは、障がいのある子どもへの個別の発達支援です。「新おもちゃによる療育レッスン」の旧版は34年に渡り、障がいのある子どもを育てる保護者の方々に読まれ続けて来ました。リニューアル版は保育者が行う個別の発達支援法に多くのページが割かれています。それらの個別の支援法のノウハウを実践的に講義します。

〔各回講座内容は裏面に詳細〕

【講師】 辻井 正（つじい ただし） 1回 5000円 全4回お申し込みの方 18000円



日本における初めてのおもちゃライブラリー創設者として、実践的ノウハウを生かした講義方法が定評です。現在は、臨床の場としてアサヒベビー相談（あべのハルカス：朝日新聞社厚生文化事業団主催）にて発達障がい児の相談に関わっています。また、おもちゃ（教具）と脳理論を結びつけた、セラピー教具（知能の構造理論）の普及に努めています。現職はNPO法人国際臨床保育研究所 所長。

【アシスタント】 勝山 ゆむ

おもちゃセラピストとして、法人主催の講座の助手を務め、具体的なおもちゃ遊びの指導実績を持っています。辻井の理論的な話を補足して講座を容易に理解していただく手助けをします。

第1回 7/27 (日)

第2回 8/24 (日)

第3回 9/28 (日)

第4回 10/26 (日)

**担任が頭を痛める子どもへの対応
と保育環境の設定**

～特に、相手の行動や考えを推測
できる心の理論との関係～

年々、保育園を求める発達障がい児
(自閉症スペクトラム児)が増える
に連れ、従来の保育方法や保育環境
では対応できないことが多くなりま
した。「こだわりの強い子ども」
「ADHD〔注意欠如多動性〕の子
ども」「次の行動が予想しにくい子
ども」等、設定保育や集団保育にな
じむために、安心して遊べる空間が
用意されていることと発達に合った
遊びの指導を講義します。

**「ことばおくれ」の子どもへの
おもちゃによる発達支援方法**

～ものが目の前から消えてもある
(存在)という保存性との関係～

保育園が受け入れている障がい児の
多くは、何らかの**ことばおくれ**の子
どもです。特に担任が対応に悩むの
は、顕著な機能的な障がい(例えば、
耳が不自由)のない、**ことばおくれ**の
子どもたちです。機能障がいの子
どもには、さまざまな訓練が行われ
ますが、そうでない子どもの場合
は、認知的、情緒的な支援が必要で
す。それ故に、**ことば**を教え込むの
ではなくて、子どもが負担に感じな
いような基本的コミュニケーション
方法を講義します。

**運動障がい(肢体不自由)児の
おもちゃによる発達支援方法**

～**個体発生**は**系統発生**を繰り返す理
論を根拠にした**運動神経**との関係～

保育園で受け入れる運動障がい児の
多くは、**先天的な四肢障がい**や**後天
的な事故**でない限り、大半は何らか
の原因による**運動神経系**の発達障が
いのある子どもです。それ故に、緊
張した体をリラックスさせて、**神経
系**の流れをスムーズ(疎通)に動く
ように支援してあげる必要がありま
す。おもちゃを使って大きな粗大運
動から、指先の巧緻動作を疎通させ
る遊びまでを実践的に講義します。

**知的なおくれのある子どもの
おもちゃによる発達支援方法**

～特に**ワーキングエリア**と
よばれる**脳の作業領域**との関係～

知的な認識力に問題のある子どもの
場合、**教科的な読み・書き・計算**を
一方的に教えられることが多いよう
ですが、**表面的な暗記**で終わって
います。おもちゃを使って、**分類、
順序性、**
概念を具体的に指導する方法と、**ワ
ーキングエリア**という脳の記憶領域
が、**知的障がい児**のIQの成熟に効
果的だという報告に基づいて、記憶
訓練遊びの指導を講義します。

○ をおつけください。

ふりがな 受講者名： _____ (ご希望講座 第1回 第2回 第3回 第4回) ご勤務先： _____

ご連絡先： 〒 _____ TEL _____

▽お申し込みいただきました方には後日、当研究所までのアクセスマップをお送りいたします。郵便局の振込用紙を同封いたしますのでご入金ください。

上記をご記入の上、**06-6773-3008** までFAXをお願いいたします。

